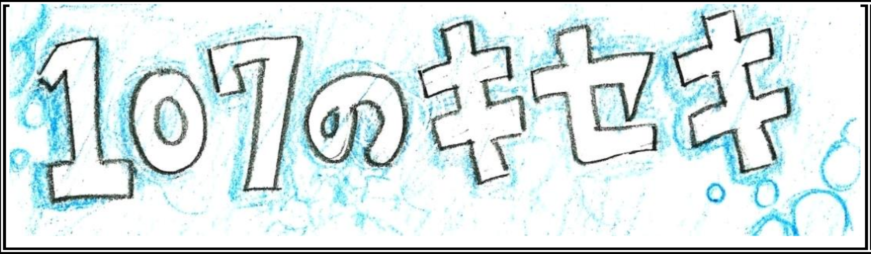


義務教育学校　第７学年

第７号

令和元年 １０月３日発行

タイトルデザイン
7-C

生身の人間の力

A 組担任

日本人って、すごいな

人間ってすごいな

世の中、まだまだ捨てたもんじゃないな

2011 年 3 月 11 日、東北地方太平洋沖地震が発生したとき、私は大学生で、東北の宮城県に住んでいました。この世界が終わってしまうのではないかと思うくらいの激しい揺れ、そのあとの津波の報道、いたるところで次々と切れていく電線、隆起し、陥没する道路、光が消えた信号、地下の管が損傷し道路から噴き上がる水。電気もガスも水道も絶たれ、真っ暗で、寒い夜が訪れました。誰もが恐怖を感じ、家族や友達の心配をし、そして、明日からの生活に不安を感じていました。余震が続く中、まずは自分たちの安全、水と食料の確保。それが第一でした。

その日の夜、まずは食料を確保せねばと、暗くて寒い道をコンビニに向かって歩くことにしました。こういう状況において考えることはみんな同じで、到着すると案の定、大勢の人がコンビニに詰めかけ電気の消えた店内は人でいっぱいになっていました。どの人も、「何でもいいから食べられるものが欲しい」と慌てている様子でした。しかし、驚いたことに誰一人列を乱さずレジに向かって一列に並び、会計の順番を待っていました。この混乱の中、お金を払わずに真っ暗な店内から商品を持って行くこともできるのに…自分たちのことしか考えない人が出てきてもおかしくないのに･･･。災害のとき、スーパーマーケットに人が押し寄せ、品物を奪い合い、お金を払わずに持ち去って行ってしまうという海外のニュースを見たことがあった私は、日本人の冷静さと、どんなときでも他人を思いやる精神に胸を打たれました。結局、コンビニの食べ物は売り切れていましたが、心がふわり温かくなった夜でした。

翌日、街に出てみると、いくつかの飲食店の前で湯気が上がっていました。「冷凍庫が使えず、中の食材が溶けてしまうから」と、お店の人がガスボンベを使って鍋を作ったり、肉を焼いたりして、街の人に炊き出しをしていました。自分たちだけで食材やプロパンガスを独り占めせず、どんな人にでも「寒いから温まって」と無料で食べ物を提供
宮城県庁に行くと、パンと果物の配給がありました。

列に並んで待っていると、パンをもらったおばあさんが私に「あなた若いんだから、しっかり食べなさい」と、もらったばかりのパンを半分くれました。道を歩いていると、商店街の豆腐屋さんから「食べて」と油揚げをもらいました。顔は知っているけれども、ほとんどしゃべったことのない近所のひとから「あっちの公園で水が出るらしいよ」と教えてもらいました。「大丈夫だったか？お前と連絡が取れず心配して来た」と部活の先輩が、遠いところからわざわざ歩いて訪ねて来てくれました。誰もが恐怖を感じているのに、家族のことが心配なのに、明日、食べるものがあるかどうかわからないのに。「人の温かさ」や「助け合い」という言葉は、口に出したり、文字にしたりすると、なんだか薄っぺらなキレイごとのように感じられることもあります。でも、私は本当にそのとき「キレイごと」ではなく、人の温かさを感じたのです。まさに、人に助けられたのです。

震災の直前、「最近の日本は、人と人とのつながりが希薄で、自分のことしか考えない人が増えてきている」と、さまざまなメディアで報道されていました。でも、実際は違いました。いざとなったら、人間は強い。人は、助け合える。支えあえる。誰かのために、必死になれる。

今、世の中は情報にあふれています。困ったときや何か知りたいときは、パソコンやスマートフォンさえあれば、なんでも事足りるような気がします。最寄りのコンビニの場所。駅までの道順。料理の作り方。友達との仲直りのし方。受験勉強のコツ。検索すれば瞬時に情報が手に入り、わかった気になってしまいがちです。でも、あなたがピンチの時、本当に頼りになるのは、今あなたの隣にいる生身の人間なのです。家族であり、友達であり、先生であり。インターネットや Twitter、Facebook、Line などの便利なツールを賢く利用することも大事ですが、もっと大事なことは人間との生のコミュニケーションです。顔と顔を合わせ、たくさん話をしてください。

今、7 年生の皆さんは学 P で幸福や世界、未来のことについて考えていますね。たくさんの情報を入手して、ああでもない、こうでもないと議論をしています。「これが Happy World in the future につながるはず！」と結論づけた人もいるかもしれません。しかし、人から聞いた話や、インターネットの情報だけをもとにした“独りよがりの机上の空論”にはなっていませんか？“絵に描いた餅”で終わっていませんか？是非とも、自分の脚で生の声、現場の声を聞きに行ってみて下さい。インターネットの文字を眺めているだけでは感じられない生身の人間の力を感じるはずです。すべてはそこから始まります。

体育祭（９／３）

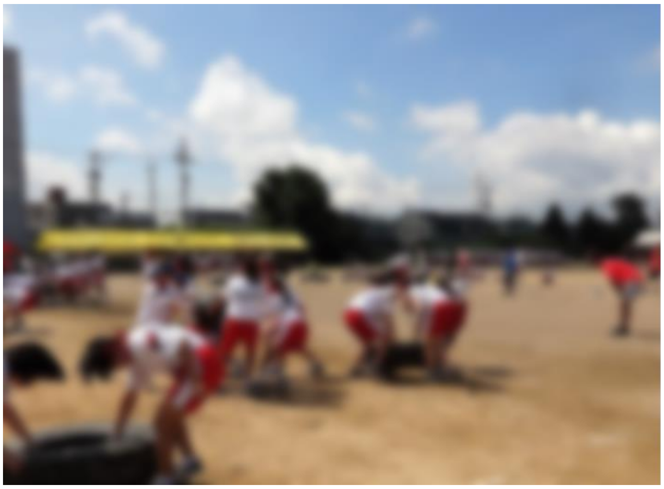
　雨天のため１日順延となりましたが，第５７回体育祭が行われました。体育祭実行委員を中心に，夏休み前から，毎日遅くまで活動し，自分たちが納得できる形にしようと，頑張ってきました。応援練習も，９年生を中心に最後まで粘り強く，仕上げを行いました。体育祭当日は，どの色も全力で取り組み，練習の成果を披露することができたようです。７年生は初めての体育祭でした。上級生と共に何かを創り上げる感動や達成感を味わったようです。

くじ引きリレー

引いたくじのお題の通りに走ります。「めがねをかけている人を連れてくる」「教生の〇〇先生」などなかなか難しかったです。

輪ーゲンセール

ポイントが高いタイヤを選ぶか，数多くのタイヤを奪うか。女子の方が激しかったような…。



体育祭実行委員中心に運営されました。

騎馬戦

ヘルメットにつけたお花がかわいらしいですが，激しい戦いでした。

応援合戦

　どの色も三学年が一体となったパフォーマンスを披露しました。応援団は夏休み中から練習を積み重ねていました。

選抜リレー

　各クラスの走力自慢の選手で競いました。

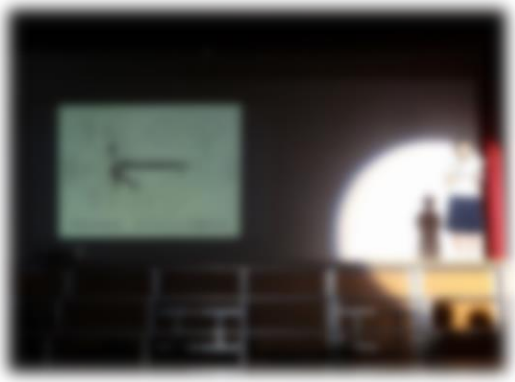
学年プロジェクト

「フゾえさん」

学年プロジェクトのこれまでの学びを寸劇とプレゼンテーションで表現しました。

夏休み直前，ようやく学年プロジェクトのテーマが「Happy World in the Future」に決定しました。夏季休業中には個人でテーマにかかわる調査活動を行い，関連がある調査内容毎にグループを編成し，個人探究を進めました。事前のプレゼンでは教育実習の先生方から大学生の視点からのアドバイスを受け，改善を重ねました。前日のリハーサル終了間際まで，スライドの手直しをするグループもみられ，自分たちの探究活動にこだわりを持ち始めています。文化祭での発表は，先輩や保護者の方々や，社会創生プロジェクトをすすめる前期課程６年生からいろいろなアドバイスもいただきました。３年間続く学びの一つ目のターニングポイントとなる中間発表の場になり，次のステージに向かう原動力になっています。

サザエさん一家の配役もぴったりでした。



８・９年生の先輩方の探究してきたことに関連したアドバイスをいただきました。

保護者の方からもたくさんのコメントをいただきました。

６年生からは，社会創生プロジェクトで取り組んでいる探究活動についての報告もありました。

文化祭（９／１４，１５）

テーマ幕・進行表

文化祭実行委員会の作品。

今年の文化祭のテーマは『Spirit』。このテーマには「魂から盛り上がれる最高な文化祭にしたい」という思いが込められています。生徒会執行部や実行委員よるオープニングで開会し大いに盛り上がりました。FCC,や特ステでは普段見ることのできない仲間の一面を見られたようです。合唱祭ではこれまでの成果を発表し，先輩方の迫力ある歌声に附属の伝統を十分に感じていました。７年生にとっては，初めての文化祭。刺激的な二日間になりました。

技術部実験ショー

「象の歯磨き粉」「空気砲」

委員会，部活動など様々なステージ発表がありました。

整美委員会　「フゾえもん」

寸劇で掃除のこつを学びました。

モザイクアート

全校で一つの作品を製作しました。どんなデザインなのかは文化祭当日しかわかりませんでした。全校生徒が１枚ずつ仕上げた 300 枚以上のピースを，美術委員会が丁寧に貼り合わせました。

合唱祭（９／１５）

７－A　「明日へ」

指揮者：

伴奏者：

音楽監督：

学年合唱　「平和の鐘」

指揮者：　伴奏者：　音楽監督：

７－B　「絆」

指揮者：

伴奏者：

音楽監督：

７－C「My　Own　Road」

指揮者：

伴奏者：

音楽監督：

９月道徳

今月は，担任の先生と，教生先生の授業がありました。

７A　「本が泣いている」

図書館に勤める岩井さんは，利用者のマナーの悪さに悩まされています。社会の一員としてどんなことに気をつけると，皆が気持ちよく過ごすことができるのかを考えました。

７B　「自分とのつきあい方を考えよう」

自分の短所から長所を見つける活動を行いました。短所と長所の関係に気がつき，「短所しかない」と思い込んでいても，なぜ短所ととらえるのかを仲間の意見から考え直しました。短所も別の方向から眺めると長所に言い換えることに気づくことができたようです。

７C　「銀色のシャープペンシル」

主人公の僕は，ふとしたでき心で友人のシャープペンシルを自分の物にしてしまいます。そのことを別の友人から指摘されますが，ごまかしてしまいます。嘘をついてしまった僕と自分を照らし合わせながら，人の心の弱さを見つめ，乗り越える方法を考えました。